



みはま 議会だより

9月議会
第3回定例会
第129号

CONTENTS (目次)

- 一般質問 8議員 4
- こんな質問がありました 12
- 地震・津波対策特別委員会視察報告 14

平成29年(2017年)10月25日

町の総決算額

72億1千7百万円

9月定例会は、9月12日から21日までの10日間の会期で開き、報告1件、工事請負契約の締結、一般会計補正予算など議案13件、平成28年度一般会計・特別会計・水道事業会計の決算など認定7件について審議を行いました。

なお、一般質問は8議員が行いました。

報告・議案については次のとおりです。

報告第1号 平成28年度決算に係る健全化判断比率及び資金不足比率の報告について

議案第1号 和歌山県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更及び和歌山県市町村総合事務組合規約の変更について

議案第2号 美浜町公共下水道事業基金の設置に関する条例の一部を改正する条例について

議案第3号 美浜町公民館設置条例の一部を改正する条例について

議案第4号 美浜町文化財保護条例の一部を改正する条例について

議案第5号 美浜町介護保険条例の一部を改正する条例について

議案第6号 美浜町営住宅条例の一部を改正する条例について

議案第7号 美浜町農業集落排水事業処理施設の設置及び管理に関する条例及び美浜町公共下水道条例の一部を改正する条例について

議案第8号 工事請負契約の締結について

議案第9号 平成29年度美浜町一般会計補正予算（第2号）について

議案第10号 平成29年度美浜町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）について

議案第11号 平成29年度美浜町介護保険特別会計補正予算（第2号）について

議案第12号 平成29年度美浜町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）について

議案第13号 教育委員会委員の任命について

認定第1号 平成28年度美浜町一般会計歳入歳出決算認定について

認定第2号 平成28年度美浜町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について

認定第3号 平成28年度美浜町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について

認定第4号 平成28年度美浜町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について

認定第5号 平成28年度美浜町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について

認定第6号 平成28年度美浜町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について

認定第7号 平成28年度美浜町水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について

認定第7号 平成28年度美浜町水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について

平成28年度

わが町の決算

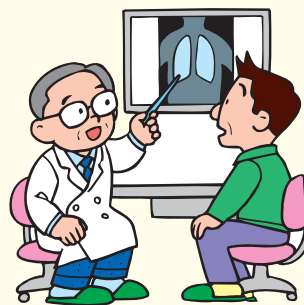
一般会計



43億5,100万円

特別会計

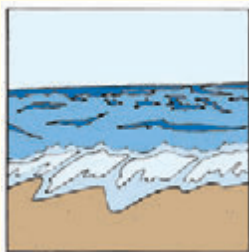
国民健康保険のお金



12億3,200万円

特別会計

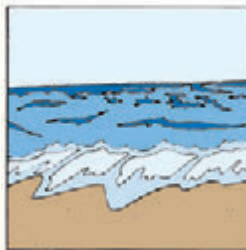
和田、入山・上田井
の下水道のお金



8,700万円

特別会計

浜ノ瀬、新浜、吉原、
田井畑、本ノ脇
の下水道のお金



1億5,100万円

特別会計

介護保険のお金



8億2,400万円

特別会計

後期高齢者医療費の
お金



1億8,800万円

水道事業会計

上水道のお金



3億8,400万円

一般質問



繁田 拓治 議員

質問

西山統括官今後の処遇は！

答弁 原則2年で一区切りだが…

地方創生

質問 今、我が町で行われている地方創生事業の進捗状況は。

町長 プロジェクトAは、アンテナショップPMH AMAで、地域おこし協力隊を採用し企画運営を行っている。

プロジェクトBは吉原公園の整備。

プロジェクトCは、三尾のレストラン、ゲストハウス、カナダミュージアムであり、月に一度「美浜創生総合戦略実施運営会議」を行い、町の人口減少の動きが弱まり、笑顔の絶えない魅力的なまちになるよう努めている。

質問 今まで、国の政策や日本銀行でも間違いを犯している。失敗を恐れず思い切った取り組みを期待している。

町長 その方向で取り組んでまいります。

質問

西山統括官はこの地方創生事業に2億円もの補助金を獲得してくれました。

県内にこんな市町はない、町として大変ありがたい。

その方の任期が迫っている、雇用の延長をお願いしたい。

町長 原則2年で一区切りだが、今後ともいう思いもある。

質問 この事業を成功させるためには、観光バスが西山一周でできる道路網の整備も必要。

副町長 海岸沿いの道路整備は大変重要であり、継続して取り組む。

英語教育

質問 ひまわりこども園に英語活動を取り入れていただいたが。

教育長 子ども達は活動的に英語への親しみを増し、内容の定着が適切に図られており、保護者からも好評。

園長

子ども達は楽しく学び、遊びや生活の中でも英単語や歌を口ずさむようになって保護者も喜んで期待してくれている。

質問 これを小学校に広めていく考えは。

教育長 平成32年度より小学校5・6年生に教科として英語が導入されるが、2年間の移行期間で様子を見ていきたい。



▲好評な英語教室（ひまわりこども園）

質問

地方創生事業で、三尾地区で取り組もうとしている、英語版「語り部ジュニア」との関連性を学校教育に生かせないか。

地方創生統括官 教科外という位置づけで、中・高校生に楽しみながら学んでもらう方法を模索している。

一般質問



谷 重幸 議員

質問 町長の決断を!!

答弁 もう一步踏み込んで進める。

新浜地区に集会所を

質問 現在使用のさざなみ荘は、漁協所有の建物を町が借り受け、さらに新浜地区に貸し出す形で使用されている。

さらに台風時等には、使用を制限され、松原地区公民館への避難を余儀なくされていることから、その使用、また、避難所の機能を考えても疑問をもつ。

当地区のコミュニティの場として、あるいは防災の拠点として新たに整備されてはいいか。

町長 町内で一番大人数の区であるのに対し、大人数が集まれる場所がさざなみ荘以外にないことや、利用を制限される等、状況は理解している。

ただ、同規模施設となると、多額の費用がいること等、総合的に勘案しながら、課題として取り組みたい。



▲さざなみ荘

質問 結局どうするとう話か。

町長 長年、区や住民からも要望があがっているが、そのような対応だけできたのが現状。

過去からの建設話や、事情、さらに松原地区の防災面も考えれば、その必要性は尚更理解できるのでは。

町長 議員がおっしゃる所の、実情は把握している。

中長期的な形ということでご理解いただきたい。

質問 中長期と言いつが、も

うその時期ではないのか。これまで、本当の意味での検討すらしていない。

多額の費用がいることも理解するが、これまでの実績や、現在の当町での事業メニューから考えても、費用の捻出方法はある。

最終的には町長の判断、この問題を進めることを約束いただきたい。

町長 改めて実情は理解している。

もう一步踏み込んで、財政当局に指示し、その方向を一定、進めてまいりたい。

財政調整基金

質問 現在、国は地方自

治体の基金残高の増加を問題視している。

当町において、地方交付税は歳入の中で約40%を占める貴重な依存財源であるが、基金残高の増加を問題視されているとなれば、今後、地方交付税の配分に影響してくるのではないかと危惧するが町の見解は。

町長 今後、省庁間のせめぎ合いが始まるものと推察するが、財務省の認識や経済諮問会議の意見は、小規模の自治体の事情を理解していない。当町としても容認できるものではない。

町村会等を通じてそういう声が届くよう努力したい。



▲自治日報より

一般質問



碓井 啓介 議員

質問

今後の防災・減災計画は？

答弁 終わりにき防災・減災対策に最善を尽くしたい。

質問 松原高台も近々完成し、津波による避難困難地域も一応解消する。

また、今後も浜ノ瀬地区や田井畑地区に、避難場所の計画もあると聞いている。

冠水被害についても、今秋から西川の改修工事も始まるなど、色々な防災計画が、計画また実施されつつあるが、町長の考えている今後の具体的な防災・減災計画は。

町長 計画は非常に多岐にわたるが、美浜大橋・庁舎・小学校などは既に耐震補強済みであり、現在整備されつつある松原地区高台や三尾場外離着陸場も今年度中に完成の予定である。

さらに浜ノ瀬・田井畑の2つの地区で計画されている一時避難場所も、来年度中に建設したいと考えている。

このことにより、整備計画に記載の優先度1のハード整備5施設は完了する。

今後は、優先度2の事業を優先度1にランクアップし整備を進め、終わりにき防災・減災対策に最善を尽くしたい。

質問 優先度2の事業の中の優先順位はどうなるのか。

防災企画課長 優先度2の中には吉原公園・大浜団地・上田井高台・防災無線のデジタル化などがあるが、大浜団地の避難施設は、その当時無かった老人ホームのタワーもでき、施設の入所者の避難に地元の方の助けも必要だということで、ここは老人ホームのタワーを兼ねたいと思っている。

吉原公園は近くに、松原小学校やひまわりこども園、また松原高台も完成する事から実際必要なのか検討している。

上田井の高台は、浄水場の配水池を利用した築山となっているが、区長からも色々話を聞いているので今後検討したい。



▲老人ホームの避難用スロープ

質問 課長の答弁では、優先度2の中で次は、上田井という形になってくると思うが。

また、大三尾は孤立しないのか。

旧三尾小学校に通じる道の整備、それが無理なら大三尾に緊急用ヘリポート整備の考えは。

町長 現在、計画の上田井高台は、少し離れているかと私も思っている。担当課に改めて適地の調査を指示した。

大三尾地区も色々な事を勘案して前向きに検討していきたい。

一般質問



龍神 初美 議員

質問 災害対策の実践的訓練をしてはどうか？

答弁 実践的な訓練は必要

質問 災害後の迅速な復旧作業には、例えばプロジェクトチームなどの設置や事前の準備、訓練が重要だと思うが、具体的な対策の考えは。

町長 現在策定中の、地域防災計画全町型BCP（事業継続計画）、公共下水道BCPなど精査し、今後準備や訓練に反映していきたい。

質問 指定避難所が、有効に使われる対策についての考えは。

町長 去る8月6日、避難所運営リーダー養成講座として、避難所運営ゲームHUGを開催した。訓練を繰り返し行い、様々な事柄に対応できるよう、今後もこの様な機会を増やしていきたい。

質問 支援物資の集積場所や集積の仕方、一次仮置場の設置場所の考えは。

町長 美浜町体育センターを救援物資の物資集積中心拠点と位置付けている。

集積の仕方や一次仮置

場については、なかなか難しい事柄であり、県などにも相談し、広域的に考える問題だと思っている。

質問 避難所運営リーダー養成講座を小中学生の防災教育にも広めてはどうか。

町長 防災教育という意味では良い案だと思うが、出前講座や防災講座なども活用してもらいたい。

質問 物資の集積の仕方、事前に考えることは本当に難しいのか。

防災企画課長 各自治体、ボランティアが持つべき



▲避難所運営リーダー養成講座

た物資を分けるといのは、労力も必要とし、今の段階では難しい。今後、この様なことが課題になってくるのではと考える。

質問 災害廃棄物の様々な問題を1市6町で事前に研究をしてもらえたらと思うが、改めて見解を伺いたい。

防災企画課長 1市6町で応援協定を結んでいる。協定を生かして、広域的に仮置場を設置して頂くよう、町村会などで話してもらえればと思う。

質問 今後、避難所運営リーダー養成講座などの勉強をしたのちに、実際の施設で訓練をする考えは。

防災企画課長 実践的な訓練は必要だと思っている。機会があればこの様な訓練を考えていきたい。

一般質問



中西 満寿美 議員

質問

民間施設と協定を結び
福祉避難所を増やさないか

答 弁 近隣の状況を勘案し
措置したい

熊本地震の被災地に学ぶ
防災減災対策

質問 昨年、御坊市と6町で災害時相互協定を結んだが、広域の協定が必要ではないか。

町長 昨年10月三ハマサミット4町で協定書を締結した。

質問 本町9ヶ所の避難所で浸水しないのは2ヶ所、避難所確保はすすんでいるか。

町長 一次避難場所の整備を優先している。

質問 熊本地震の死者41人中、関連死が99人、1市6町の協定をいかにして避難所確保をすすめるのか。

町長 災害対策基本法にのっとってやっていく。

質問 福祉避難所の対象者は371人、老人施設、寺院など民間施設と協定を結べないのか。

町長 近隣の状況を勘案し措置したい。

質問 町内に災害用井戸は、何ヶ所あるか。



▲益城町の仮設住宅

町長 所有者の承諾と水質検査良のところ10ヶ所指定。

質問 生活用水だから水質検査で多少問題があってもいい。
町長 もっと増やすべきではないか。

町長 検討したい。

必要ときに誰もが利用できる介護保険に

質問 平成27年8月の介護保険改定により、利用抑制は起きていないか。

町長 ないと認識している。

質問 介護保険料普通徴収で70万6千円余りが不

納欠損となっているが、その状況は。

町長 15人、理由は世帯収入減。

質問 年金収入年間18万円以下が普通徴収、一方、介護保険料は年額3万1,320円。

保険料が高すぎるのではないか。

町長 第6期計画で策定した保険料だ。

高いとはいえない。

質問 滞納すると、どんなペナルティがあるのか。

町長 介護サービスを利用する場合、滞納期間に応じて利用料が3割になったり、高額介護サービスが受けられなくなる。

質問 必要な時に誰もが利用できる介護保険にするため、もっと町村会で国へ要望しないのか。

町長 引き続き、その方向でやっていく。

一般質問



北村 龍二 議員

質問 避難訓練時、災害弱者は？

答弁 津波避難訓練とは別に検討。

災害時におけるきめ細やかな取り組みを

質問 災害弱者に対するきめ細やかなマニュアルの作成も、必要ではないのか。

町長 災害弱者の参加率を上げるための訓練方法の見直しは、今のところ最大の策が見当たらないのが現状。

作成もしないが、今後、和歌山県や福祉関係及び、防災担当者から情報収集、調査をして近接市町の災害弱者用避難所マニュアルの作成に向けて検討していきたい。

質問 防災関係のハード面は、よく目立つ。ソフト面にも力を入れてほしい。

町長 地域防災計画をしている。

絵に描いた餅ではなく、実効力のある計画が必要だ。

現時点でも防災企画課で研究、検討している。



▲避難訓練の様子

しかしながら、基本的にはこういった災害が起こつた後は、自助共助公助と日頃の地域コミュニティが一番大切だと考えている。

災害時におけるペット同行避難

質問 当町は、どういった取り決めをしているのか。

町長 本町の避難運営所マニュアルでは、ペットの居住空間への連れ込みは、原則禁止。

飼い主が責任を持ってグランド等の空きスペースで飼育してもらう。

その場に応じた対応をしていかざるをえない。

質問 避難訓練でもペット同行避難の方々が増えてきている。

子供よりペットの数の

方が多いと言われるこの時代。ペットの飼い主側の希望的なイメージではなく、混乱やトラブルが起きる前の対策をしておかないか。

町長 今の時代ペットが家族の一員といわれているのは、理解している。

しかしながら嫌いな人やアレルギー等もいろいろ考えられる。

避難所マニュアルはこういう方向が現状。

今後ペットの問題も多くなってくると思うので、防災担当の方でも検討していきたい。



▲犬のしつけ方教室

一般質問



田淵 勝平 議員

質問
「煙樹ヶ浜松林再生計画」周知は？
答弁 再度説明したい。

質問 平成23年に「煙樹ヶ浜松林再生計画」が策定され、初めて、具体的かつ詳細な保護育成方法が示された。

しかし、松林保護育成会の役員や住民の方から「我々は松を保護したいのであって、雑木を育成するつもりはない」という意見があるが周知を怠っているのではないか。

町長 計画は、神戸大学大学院教授や日本緑化センター、県林業試験場、日高振興局を初め、町内の小・中学校長、地区長、保安林保護育成会の会長及び副会長の総勢23名の策定委員会で策定したので、計画の承認を賜っていると認識している。

しかし、数年が経過している中で、機会を見て再度説明をしたい。

質問 意見があるということは、実際に雑木の繁茂が過ぎる場所があるといつころではなかか。

町長 保安林保護育成会の場で、広葉樹の伐採に

関する意見を聞いています。

質問 保護育成会の活動で松の間伐を行っているが、それで十分と考えているか。

町長 将来、公共事業による間伐も視野に入れている。

質問 場所によっては、すでに間伐の時期を見逃している。

また補助金は、

町長 間伐は和歌山県に對しての届け出で行うことができ、また補助金もある。

メニューによっては国の補助金もある。



▲薄暗い現状



▲植林したまま

質問 箇所を選定して、松の純林として管理してはどうか。

町長 煙樹ヶ浜松林一帯の南端部分は松の純林であり保全に努める。

質問 植樹した箇所は純林にすると明言してはどうか。

町長 これは純林で守っていききたい。

産業建設課長 貴重な純林なので、1ヘクタール

当たり10,000本植樹したが、間伐をし将来は3,000本、最終的にはそれ以下と想定している。

質問 あらためて聞くが、雑木の過繁茂も目立つが、雑木の間伐はどうか。

町長 雑木等も保安林だが、いろいろな問題もあるかと思う。

改めて担当課と、間伐、除伐を検討していきたい。

一般質問



鈴木 基次 議員

質問 こども園開園10周年の総括は

答弁 さまざまな出来事を糧として…

質問 ひまわりこども園開園10周年を迎えての所感、総括と、さらなる充実に向けての取り組みを問う。

教育長 開園以来10年目を迎え、この間のさまざまな出来事を糧として、職員自身も事柄への対処・対応にも慣れ、落ち着いた教育及び保育活動ができていると感じている。

「三つ子の魂百まで」という言葉があるように、幼児期の教育及び保育は、人として育つための根幹である。

今後、園の魅力の根幹は、安心して子どもを預けることができると感じてもらえることで、その基盤の上に、英語活動の充実等、子どもや保護者が魅力的であると感じられる対策を行うことへ。

質問 園長に就任して4年目を迎えるが、これまでの感想と今後の抱負は。

園長 これまで多くの人々の思いや努力によって、今のこども園が育まれてきた。

この園の伝統と歴史をしつかり受け継ぎながら、今後も保護者の方、地域の方などのご協力を得て、職員一同力を合わせ、よりよい教育、保育を目指して魅力ある園づくりをしていきたい。

ふるさと教育の現状

質問 町内小中学校の「ふるさと教育」の取り組みの現状と今後の課題は。

教育長 町の教育大綱に「ふるさと教育の推進」の文言を盛り込み、ふるさとを知り、ふるさとを愛する心の育成をめざしている。

具体的には、小学校では、地域のどこに何があ

るのか、どんな人々がどのような生活をしているのか、また地域の偉人についても学んでいる。

中学校では、一年生では減災学習、二年生では職場体験学習、三年生では新聞作り、子ども議会への取り組みを行っている。

課題は、子どもが将来美浜町を支えてくれるためには、どんな取り組みが必要かである。

小中連携教育は

質問 小中学校連携教育の現状、今後の課題は。

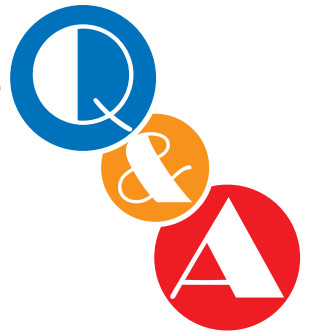
教育長 本年度は、相互授業参観、授業公開、松林清掃、生活のきまり・生徒指導システム等情報交換、教科ごとの授業交流、新中学一年生についての意見交流等の取り組みを進めた。

課題として、小中学校間の指導内容及び指導方法の系統の共通理解をさらに深める取り組みが挙げられる。



▲開園10周年目の夏祭り

ありがとうございました!!



地方創生事業

三尾公民館2Fをレストランに

公民館設置条例 (三尾公民館)

- Q なぜ今の時期に条例改正なのか、予算の時に出すものでは。
- A 営利目的の使用はできない。工事よりも先にということを出した。
- Q 順番が違うのでは。
- A 場所は申請時点では仮であり、最終的に協議会で決定した。
- Q 三尾公民館の前提で予算を承認したがどうか。
- A 地域の方の賛成なしではできない。話し合いの中で決まった。
- Q 申請時点から、場所は変えられないという話だったと思うが、どうなっているのか。
- A ・・・
- Q 公民館という括りを2階部分だけ外すということだが、それで公民館機能は、まかなえるのか。



▲三尾公民館

- A 実績では、会議が1回程度だが、必要がないということではない。
- Q 公民館機能と考えると、対象は三尾に限ったものではないがどうか。
- A 三尾の利用が少なからずということではない。

- Q 2階部分は、総務政策課で管理するのか。
- A いったんは普通財産で総務政策課の管轄になる。
- Q 持ち主は町である。何も決まっていらないのか。しっかりと対応するべき。
- A しっかりとまとめていきたい。

下水道料金の統一

- Q 新料金の設定に原単位をしっかりと出して計算するべきでは。
- A 予算を基に積み上げて算定している。
- Q マイナスシーリング(歳出予算の総額を抑える方式)をしていく中で、大丈夫なのか。
- A 工事が終わったことで、きめ細かい点検を実施し、修繕費等を抑制したい。

松洋中学校

- Q 空調設備の予算がついたとのことだが、雨漏りの対応が先ではないのか。
- A 平成21年度から、県に申請していて、本年度採択された。雨漏りも並行して考えている。
- Q 申請からの期間があまりにも長いがどうか。
- A 毎年、申請していたものがやっと採択された。

こんな質問が



▲浜ノ瀬地内の松林

松枯れ

Q 平成28年度で増えていたが、平成29年度でも増えるか。
A 平成28年度は高温少雨で被害本数が増えた。今年度も注視しているが、どちらとも断言はできない。

Q 予算を増やして対策をとれば、被害は抑えられるか。
A 樹幹注入が最も効果的であるが、高価な薬品であり難しい。予算を最大限活用して、効果をあげたい。

日高病院

Q 負担金、今後減る要素はあるか。
A 担当課の方では掴めていない。
Q 経営陣でもある、町長の見解は。
A 現時点では、赤字の解消は難しいのではと考えている。

吉原上田井線

Q 赤字が続くという話は受け入れられない。過去にコンサルが入って、黒字にするという話はどこにいったのか。
A 記憶にない。改めて問いただしたい。

Q 減額の説明を詳しく。
A 平成29年度で、2億8,500万円が割り当てられたが、補助率の算定式が変わり65%から60.5%となった。
Q 工期等に影響はないか。
A ないと考えている。

ICT(情報通信技術)の導入

Q 補助率が、ころころと変わっているのは、まともな事業展開ができないと声をあげるべきでは。
A 町村会等を通して検討したい。

Q 教育に対してICTの導入をどう考えているか。
A 時代の流れでもあり、今後どうしていくか協議したい。
Q モバイルラーニングに対して、予算付けしていく考えは。
A 活用を増やすため取り組みたい。



▲町道吉原上田井線

熊本地震に学ぶ

地震・津波対策特別委員会 熊本県行政視察

視察概要

視察日

平成29年7月31日～

8月2日

視察地

熊本県 益城町、南阿蘇村、熊本市
福岡県 久留米市、福岡市

視察目的

- ・熊本地震の状況、復旧・復興状況
- ・避難所運営の状況・課題
- ・災害後の廃棄物の処理システム
- ・九州地方整備局の防災への取り組み

益城町

熊本地震当時、大小合わせて4300回以上の余震と震度7の大地震が2回と、想像以上の回数や大きさを家屋被害も全壊3000棟以上、半壊3200棟以上、一部損壊が4300棟以上で町全体の半分以上を占めた。



▲仮設庁舎で説明を受ける

熊本県では今回最大の被害を受けた町である。人的被害も最も受けた地域であるため、やはりこの課題にあげられるのは、避難所の運営である。

発災後、指定避難所はあるものの、断続的な余震が続いていたため車中避難、自宅の庭先避難、畑のビニールハウス等へ避難する人も多かった。指定避難所を利用した人は半数以下であった。そしてまた益城町では、役場職員の負担が大きかった。

実際の役場業務再開は、かなりの日数を要したということだった。避難所の運営には、自主防災組織（防災訓練や防災意識を高める）を日頃から、きめ細やかに組織運営していくことが大切である。

災害時はそのシミュレーション通りにはいかない、臨機応変な対応が必要となる。

また議員として災害時には、どのような行動をとるべきなのか？現実問題、何もできないという

ことであった。

「最初はきついことも言われる」と言っておられたが、何回も何回も足を運ぶことによって「ご苦労さま」という声も聞けたと言っていた。

一番大切なことは、どこまでも住民に寄り添う覚悟が必要である。

南阿蘇村

地理的な特徴から、集落・住宅等が地滑り等の土砂災害が多く発生し、多数の道路が被災し、あ



▲落橋した阿蘇大橋現場

こちらこちらで通行止めが多くなりました。

また水道等の復旧工事に目処が立たず、長期避難者が多くなっていると聞いた。

観光客も年間700万人が訪れる地でもあったが、昨年は300万人だったとのこと。財政収入にも大きくひびいた。

そして避難生活での病気が対策についても、発災後一週間でインフルエンザ、ノロウイルス等の感染症の発生、拡大防止策を考えておくことも重要であると語っていた。

また関係機関との連携（自衛隊・消防・自治体・ボランティア）も重要。

議会も益城町同様、議員が災害対策本部に入ることなく、各地区に属する議員が寄り添い、対応可能な事柄を懸命にこなしていくとこのことであつた。

熊本市

県の県庁所在地、人口74万人の都市。

人的被害は直接死が6人、関連死が66人、重傷者750人とういうことだった。

避難者11万人、避難所267か所だったが火災

は1件もなかったとのこと。

通電火災が起きないようにブレーカーを落とし、一軒一軒回ったとのこと。罹災証明書の発行は、発災約1カ月後の5月17日に開始された。

早い対応で被災者支援の資金の給付や融資、税

金や保険料の減免申請ができ、被災者の再建に迅速に対応できる。

同時に被災者総合相談窓口も開設され、被害見舞金等の生活再建支援に関する申請受付等にも応じたとのこと。

熊本城の被災状況には言葉には表せない状況であつた。

石垣などを含め、完全復旧には概ね20年を要するとのことだ。

視察を終えて

今回の視察の中でも、多く取り上げられている避難所運営。

当町も今が「最適で文句のつけようのない避難対策」ではなく、自助、共助、公助に分担された避難所運営を目指す。

それぞれ自立した避難所を作り実践訓練をする。

相手に強要することなく、自らが避難所を運営していくよつな気もちで、超大家族を支えていく主



▲無人バックホウ

のごとく親切に対応し、避難者同士のコミュニケーションも大切にします。実際、「大地震が起きれば、あたふたして何も行動を起こせない」と体験された方々は口をそろえて言う。

だから日頃の防災訓練をきっちり行い、回数を重ねて精査していくことが非常に大事であると考えている。

終わりになき避難訓練の向上心を、これからも町と住民の皆さんにもって頂きたい。

(委員長 北村龍一)



▲修復中の熊本城



秋本番



あなたの意見をお待ちしております

議会に対するご意見、あるいは「議会だより」を読んだ感想など、何でも結構です。
あなたの声を議会事務局までお寄せください。

《連絡先》

美浜町議会事務局
TEL 23-5544 (FAX兼用)
mail gikai@town.wakayama-mihama.lg.jp
URL <http://www.town.mihama.wakayama.jp/bunya/mihamachogikai/>



議会中継についての
お知らせ

本庁舎1階ロビー
と中央公民館におい
て、議会中継が視聴
できます。
ぜひ、ご覧ください。